

平成 26 年度原木椎茸伏せ込み地診断結果について

平成 26 年度の原木伏せ込み地診断は、梅雨明け前後の 7 月 14 日から 7 月 31 日まで（梅雨明け 7 月 20 日）の延 8 日間、6 農林管内 23 箇所で行いました。

診断には、県資源活用研究センターおよび日本きのこセンター（房田政行氏）があたり、福岡県特用林産振興会（安河内龍生専務理事）、農山漁村振興課中山間地域振興係も同行し、各農林事務所、JA 等の方々の協力のもと実施しました。

表 診断日程

農林名	診断日程	件数	伏せ込地		
			人工	林内	裸地
飯塚	7月14日	5	1	2	2
筑後	7月16日、17日 31日	7	2	1	4
朝倉	7月22日	5	3	2	0
福岡	7月23日	3	2	0	1
八幡	7月28日	2	0	2	0
行橋	7月29日	2	0	2	0

1 平成 26 年の福岡県の気象概況（平成 26 年 1 月から 9 月まで）

平成 26 年は、1 月から 3 月にかけては、気温は平年並みか高い日が多く、降水量は平年並みか少なくなりました。2 月は山間部を中心に雪に見舞われました。4 月から 6 月にかけて気温は平年より高い日が多く、降水量は平年より少なくなりました。7 月からは降雨量が平年並みか多くなり、梅雨が明けても雨が続きました。8 月も降水量は平年より多く、気温は平年より低くなり、8 月には福岡県气象台より「日照不足と長雨に関する福岡県気象情報第一号」が発表されるほどでした。

2 診断の内容

(1) 原木の状況

平成 25 年の原木伐採は 10 月下旬から 11 月下旬まで行われており、全体的にやや遅い傾向がありました。また、2 月の雪により乾燥が遅れ、生木状態の所が多く見られました。玉切りまでの葉枯らしが十分でないとシイタケ菌が伸長できないため、3 分から 6 分黄葉のころに伐採し、60 日～90 日の乾燥期間をとります。特に老齢木は水抜けが悪いため、3 分黄葉以内に伐採し 90～100 日の乾燥期間が必要になります。玉切りの購入原木の場合は、伐採時期などを確認し、生木の場合は植菌後に通風の良い環境を作りましょう。

(2) 植菌後のほだ木の菌回り

全体的に生木状態のほだ木が多く、活着後に菌糸伸長が停止しているところが多く見られました。また、4 月～6 月にかけての降雨量が少なかったことにより、表面の乾燥が進ん

であり、このため水抜けしにくくなっている状態でした。このような状況で、診断を行った7月の段階では全体に菌糸の伸長が遅れていました。しかし、その後8月にかけて降雨が多かったことから、菌糸の伸長は回復したと思われます。



写真 ほだ木表面や内部のシイタケ菌糸伸長とほだ木の水抜け状態の確認

(3) 害菌・害虫の発生状況

害菌については、全体的に高温多湿条件下で発生するクロコブタケ、トリコデルマが見られました。また、直射日光を受けたほだ木に発生するニマイガワ菌、シトネタケ、生木状態のほだ木に発生するゴムタケ、ダイダイタケが多くみられました。特に注意したいのが、シイタケ菌に対する病原性が強いヒポクレア属菌が確認されたことです。ヒポクレア属菌は空気感染の可能性も報告されており、蔓延すると非常に防除が難しくなります。発見した際は、速やかに被害ほだ木を抜き取り、焼却処分して周りのほだ木に被害が及ばないようにするとともに、伏せ込み地が高温多湿にならないよう環境整備に気をつけていただきたいと思います。

害虫は、全体的にキクイムシの発生が多く、ハラアカコブカミキリも全域でみられました。

全体的に原木伐採時期や植菌作業の遅れや仮伏せの長期化が見られ、このことが生木や高温多湿状況下で発生する害菌・害虫の発生の原因と思われました。



写真 ヒポクレア属菌が発生したほだ木（写真はヒポクレア・ラクテア）

(4) その他

生木状態の原木のときには、接種孔を深く（3mm程度）する深穴接種を行うことにより、水抜けが良くなりシイタケ菌糸伸長も良好になります。是非行っていただきたいと思います。

問い合わせ先：福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター
林業普及課・バイオマス部
(平成26年8月)